

## 聖霊シリーズ「治める賜物」

### 1A 政治の必要性

### 2A 聖書による政治

1B 神政政治(神権政治)

2B 旧約聖書 モーセ

3B 新約聖書 頭なるキリスト

### 3A 賜物と資質

1B 監督の資格

2B 神への恐れ

3B 熱心な指導

## 本文

私たちの聖霊シリーズの学びは、前回、「助ける者」というところを学びました。コリント第一 12 章 28 節です、そして今日はその次にある「治める者」のところを学びます。「神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行なう者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。(1コリント 12:28)」そしてローマ 12 章 8 節にも、「勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。」とあります。

### 1A 政治の必要性

治めることについてですが、私たちがなぜ、政治あるいは統治が必要なのでしょう？ローマ 13 章 1 節には、「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。」とあります。「そして、支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なう時です。(3 節)」とあります。権威は神から来ていて、それを行使する時は悪を裁く時であるということです。続けて読むと、納税に対してもきちんと納めることを教えています。では、テモテ第一 2 章 1-2 節も読んでみます、「1テモテ 2:1-2 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。」支配者のために執り成せば、平安で静かな一生を過ごすためである、とあります。

神が人に任せられた政治には、一つに秩序が与えられ、平和に過ごすことができるように、ということがあります。悪に対しては制裁を与え、それで安全も守られます。もう一つに、税を徴収することによって富の公平化を行ない、福利厚生を受けることができる、ということがあります。人間の歴史を通じて、さまざまな形態の統治が行われました。

一つは、封建制です。それぞれの町に支配者、王がいました。カナンの地において、入ってきたヨシュアの軍に対して挑みかかった王たちが、あれほど小さな土地においてたくさんいたことを思い出してください。それぞれの町に王がいたからです。けれども、それであると絶えず戦いが王たちの間で起こります。それで君主制に移行します。イスラエルの周りの国々はそうした王たちがいたので、それでイスラエル人たちも、「私たちに王を下さい」とサムエルに要求したことを思い出してください。町と町を統合し、その統合の長として王を置くことにより、王権の国家が生まれます。そして近代になり、共和制が始まりました。それは王政を廃して人民が選出する代表者が治めるというものです。そして、民主制というものが始まりました。民が主権を持ち、全ての人が代表者の選出に関わることが強調されている政治体制です。今、私たちの国は王政と民主制が組み合わされている政治体制の中にいますが、王である天皇はあくまでも象徴的な存在であり、国政は国民に主権が任されているという体制です。そしてもう一つ、共産制というものもあります。そして全体主義というものもあります。国民は代表者を選ぶ権限は一切ありません。そして、支配者と異なる意見を言えば、互いに通報することによって監視体制を取っています。

## **2A 聖書による政治**

私たちは、共産制や全体主義より自分たちの民主制がすばらしいと誰もが思っていると思います。けれども、それで日本という国がきちんと統治されているかという、問題は山積しており、決してそうだとは言えません。それは、人を治めるのに、聖書は、すべてをお造りになられた神ご自身こそが正義と公正をもって、人を治めることができることを教えています。ですから、私たちはいつも、神に抛り頼むのです。

### **1B 神政政治(神権政治)**

そこで、主が御心に抱いておられる政治形態を、具体的な幻で読むことができる部分をご紹介します。「イザヤ 9:6-7 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」神による統治です。神が人となられて、その神の御子が油注がれ、王としてすべてを統べ治めるという形態です。神による統治を、「神権政治」や「神政政治」と呼びます。これは、神こそが王であられ、この方が主権者として私たちを支配するということです。

### **2B 旧約聖書 モーセ**

旧約聖書で見ることのできる、神権政治はモーセによるイスラエルの統治です。モーセは民の指導者でしたが、モーセが神の支配を受け、神に導かれていたので、民は神の支配を受けていました。ここに、モーセが治める賜物を用いていたことがよく分かります。イスラエルの民は、「出エジプト 20:19 どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお話し

にならないように。私たちが死ぬといけませんから。」とモーセに言いました。ですから、自分たちがモーセの支配を受けていたのではなく、神ご自身の支配を受けていたことを知っていました。そして主ご自身が、雲の柱、火の柱となってお臨在してくださり、会見の幕屋もあり、そして驚くべき奇蹟も行なわれ、神が自分を支配しているのだということを知っていました。

そして、モーセが、重荷が負いきれないと思った時、主が七十人の長老にご自分の霊を注がれました。つまり、聖霊に満たされることによって神が人を通して、他の人々を支配することができるということです。モーセではなく、モーセを通して神が支配しておられます。このことを受け入れられず、妬みと高慢の罪に陥ったのが、コラです。コラはモーセとアロンに逆らいこう言いました。「民数 16:3 あなたがたは分を越えている。全会衆残らず聖なるものであって、主がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは、主の集会の上に立つのか。」人間的には、すごく民主的でまともに聞こえます。しかし実際は、神に与えられた分を越えて自分が主の集会の上に立とうとしていたのが、コラです。モーセやアロンに対してではなく、神ご自身に逆らっていました。それで、彼は生きのまま陰府に下ってしまいました。

そしてモーセは死ぬ時には、後継者としてヨシュアを選びました。この前も学びましたが、小さなことに忠実な者が、大きなものが任されます。ヨシュアはモーセといつも共にいて、どんな必要があっても、そこにいた人でした。ヨシュアについて、申命記の最後にこう書いてあります。「申命 34:9 ヌンの子ヨシュアは、知恵の霊に満たされていた。モーセが彼の上に、かつて、その手を置いたからである。イスラエル人は彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行なった。」ヨシュアもまた、聖霊に満たされて、それでイスラエルの民を治めたのです。そしてイスラエルの民は続けて、神ご自身による支配を受けていました。これが、治める賜物です。

### 3B 新約聖書 頭なるキリスト

では、新約聖書の中ではどのようになっているでしょうか。新約時代における神政政治は、教会の中で保たれています。「キリストの体」と教会が呼ばれるのは、それが、頭がキリストだからです。イエス・キリストが教会を治める権威であり、初め、主は多くの弟子たちの中から十二人を使徒としてお選びになりました。そして彼らが、信仰の土台作りのために用いられました。「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。(エペソ 2:20)」

そして新約聖書には、「長老」という言葉が出てきます。彼らは霊的な事柄について、神から任されて人々を治めていきます。それから、執事がいます。物質的なことならについて仕えるのに、責務を持っている人々です。聖書では、何か所かにおいて、長老と牧者が同一人物として登場しています。「1ペテロ 5:1-2 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進ん

でそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。」

ですから、教会ではキリストが頭であり、その中で牧者また長老、そして執事が神に仕えて、一人一人がキリストにつながることによって、神の支配を受けています。牧者の指導には従いますが、つながるのは牧者ではなくキリストご自身です。「コロサイ 2:19 このかしらがもとなり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。」

私には、とても衝撃的な言葉がありました。それは、カルバリーチャペル・コスタメサに通い始めて間もない時、牧者チャックがこう言ったんです。「私がイエス様にとって大切な存在であると同じように、あなたもイエス様にとって大切なのです。」私は度肝を抜きました。それまでは、チャック・スミスという人はイエス様にはるかに近いところにおいて、私はずっと離れたところで、彼から教えを聞いているという感じでした。そうではなく、彼がイエス様に近いのと同じように、イエス様が自分にそこまで近づいておられるのだ、ということが分かったのです。これが、キリストが頭となって私を支配される土台となりました。牧者に従うのではなく、イエス様に従います。そして、牧者はイエス様に従うための建て上げを行なうための賜物が与えられています。

### **3A 賜物と資質**

世の中においても、指導すること、リーダーシップを取ることが自然にできる、上手にできる人々がいます。自然に備わった神からの賜物と呼んでもよいでしょう。けれども、神の支配へと人々を導く人には、いくつかの資質が必要です。その一つはすでに、聖霊に満たされているということをお話しました。自分の気持ちや考えではなく、御霊によって導かれて、それで治めている人でなければ、その資格はありません。

悪い指導者の下にいることは、悲惨です。「イザヤ 9:16 この民の指導者は迷わず者となり、彼らに導かれる者は惑わされる。」とイザヤは預言しました。イエス様も、「マタイ 15:14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を手引きする盲人です。もし、盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込むのです。」と言われました。けれども、御霊による治める賜物を用いる中では、イエス・キリストの恵みの内に各々がおり、愛の結びつきが強まり、神への従順が育ちます。

### **1B 監督の資格**

使徒パウロが、教会の指導者として適任とする資格をテモテ第一 3 章で書いています。「1テモテ 3:1-6 人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである。」ということばは真実です。ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるどころがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。..自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう。..また、信者になったばかりの人であっ

てはいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。」

これを読むと、私はどきっとします。できていない部分があるからです。「非難されるところがなく」と言っていますが、あやや、ここでもう失格です。それから気になるのは、「よくもてなす」ということです。私の家は物がごちゃごちゃしていて、人をすぐにもてなす準備ができていません！また、きちんと妻を愛しているか、家を治めているのか？という痛みもあります。ですから、この基準に照らすと私は駄目ですし、おそらく他の牧師を務めている人も失格でしょう。ここで書かれているのは、基準というよりも指針です。自分の欠けたところを見て、イエス様に頼り頼み、聖霊の助けを受けてここに書かれていることに従っていきるようになる、ということです。

## 2B 神への恐れ

そして治める務めを持っている人々は、神を恐れているということが大前提です。ダビデが死ぬ前に、次の言葉を言いました。「2サムエル 23:3 義をもって人を治める者、神を恐れて治める者…」神を恐れることなくして、人を治めることはできません。自分が神の支配を受けていることを知っているからこそ、人を治めることができます。

それを見失ってしまった一人に、ネブカデネザルがいます。彼は、「ダニエル 4:30 この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」と言いました。しかし主が人間の国を支配していることを知らせるために、神は彼に理性を取り上げ、獣のようにされました。彼に理性が戻された時に王は、「その主権は永遠の主権。その国は代々に続く。(34 節)」と神をほめたたえて、神が自分を支配していることを認めました。

新約聖書にも、この権威系統がかかれています。「1コリント 11:3 すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。」だれかを治めている時、自分がその上の存在から支配を受けていることを知っているからこそ、治めることができます。

## 3B 熱心な指導

そしてもう一つの資質は、「熱心に指導する」ということです。先に読んだ、ローマ 12 章には、「**指導する人は熱心に指導し**」なさいとありました。最近、ある牧師さんのデボーションでとてもよい内容がありましたが、ダビデがなぜ罪を犯してしまったのか、についてのことでした。ダビデはイスラエルが、アモン人と戦っているのにエルサレムに宮殿におり、現場にいませんでした。物理的に離れていただけでなく、心も離れていました。そこで、バテ・シェバの裸を見ました。もし牧師が、現場で戦っている人々のことを顧みず、ただ教えを垂れているだけにいるならば、大変危険である、ということです。祈りを一人一人のために熱心に行っていくことによって、初めて指導することができる、という内容です。

熱心に、あるいは勤勉に指導することを務めることによって、自分の個人的利益のためにその立場や権威を乱用することから免れることができます。自分に与えられている立場が自分のものではなく、もっぱら神に与えられているものであることを認めることは大事です。そのためには、熱心になっている、しっかりと行なうことが必要です。そうでなく怠けていると、自分が支配して、自分の言葉が最終権威になってしまいます。そんな例としてはサウルがいたでしょう。自分が主の御声に聞くことを忘れて、自分の思っていること、感じていること、それらを優先していきました。

そして人々が、神が今どう思っていて、どう感じているのか、それを代表しなければいけません。モーセが怒って、杖を二度打った時に、主はわたしの聖なることを示さなかったと言われました。主を示しているのか、これを吟味しないとダメです。

ヘブル 13 章 17 節を開いてください。「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。」これは乱用される御言葉です。僕になっている人、支配している人ではなく模範を示している人、そういう人々の指導を受けるといふことであり、何でもかんでも、指示に従うということではありません。

1A 政治の必要性 創世記9 ローマ 12、1テモテ2、ダニエル7章

2A 聖書による政治

1B 神政政治(神権政治) イザヤ 9:6-7

2B 旧約聖書 モーセ

3B 新約聖書 頭なるキリスト

3A 賜物と資質

1B 監督の資格 1テモテ3:1-4

2B 神への恐れ

3B 熱心な指導 1テサロニケ、ヘブル13など、1コリント10?